

★今週の聖句

七回どころか七の七十倍までも赦しなさい

マタイによる福音書 18章 22節

★ ねらい

- ・ イエスさまは「ゆるし」について条件付けを求めるのではなく、気前良くゆるすことを求められる。
- ・ そしてその「ゆるし」は決して簡単な事ではなく、ある時は痛みを伴うものであることを知る。

★ 説教作成のヒント

- ・ ペトロに対するイエス様の答えと、仲間を許さなかった家来のたとえとの間にどのような関連があるのかを注意して読む。
- ・ ユダヤ教では3回までであったが、イエスは7の70倍と言う。ユダヤ教において「7」は完全数であるので、これは際限なく赦すことが求められている。

★ 豆知識

- ・ 一般に完全数といえば「自分自身を除いた約数の和が、自分自身になるような数」のことであるが、聖書においては完成、成就、完全にかかわることを表す数として「7」が完全数であると言われる。
- ・ 1デナリオンは一日の日当。1タラントは1デナリオンの6000分の1。

★ 説教

みなさんは「やなせたかし」という絵本作家さんを知っていますか？（アンパンの絵を見せて）そうですね、このアンパンをつくった人ですね。やなせさんは正義の味方を考えたとき、「自分の持ち物や体が損をしない、痛くない、人助けはない」こんな風に考えたそうです。そうして、自分の体を差し出して、自分の頭を食べてもらって、その人を助けるアンパンマンが誕生したそうです。そして私はいつも、アンパンマンの本を読むと、イエスさまとアンパンマンって似ているなあと思ってしまいます。

さて、今日読んだ福音書の中で「損をした人」が二人出てきました。誰だかわかりますか？そうですね、10000タラントのお金を貸した人と、100デナリオンのお金を貸した人です。さて、二人にお金は帰ってきましたか？二人とも貸したお金は返ってきませんでしたね。貸した人を牢屋に入れたら、その人は働けなくなるので、やっぱりお金は返ってきませんよね。では、どちらが多く損をしたと思いますか？そうですね、もちろん10000タラントのお金を貸してあげた人ですね。100デナリオンは100日働いた分位のお金なので100万円位です。10000タラントはというと、1タラントは6000デナリオンなので、えーと、60億円位ですかね、たぶん。

さて、みなさんは60億円も人にお金を貸すことができますか？またそれをゆるすことができますか？では100万円だったらどうですか？1000円だったら？100円だったら？

それがたとえ10円であっても、それは大切なお金です。私は無くなっても構わない、返ってこななくても構わないとは思いません。ましてそれが100万円とか60億円とかだったら、大変なことです。もしその人が会社の社長さんでも60億円無くなったら会社がつぶれてしまうかもしれませ

ん。そのお金は無くしてはならないお金です。でも今日読んだ聖書には 10000 タラントンの借金を帳消しにしてあげた人が出てきましたね。この人はお金が余っていたから許してあげたのではなく「あわれにおもって」ゆるしてあげました。「あわれに思う」とは「目の前の人の苦しみをみて、自分のお腹がきりきりと痛い」という意味の言葉です。この主人は、その人の困っている姿を本当にかわいそうだと思ったのです。そして心の底から、その人に前を向いて生きて欲しいと思ったのです。だから自分の家（会社）がつぶれるかもしれませんが、この人の借金をゆるしてあげたのです。

まるでアンパンマンのような人だと思います。そう、この主君は神さまやイエスさまのことです。イエスさまは困っている人を見ると「自分のお腹がきりきりと痛い」ほどにあわれに思い、できうるかぎりの赦しをお与えくださいます。なぜなら全ての人に前を向いて生きて欲しいからです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 6 番

改訂 2 7 番

Thuma Mina の 22 番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集) 詳細は [http:// www.kyobunkwan.co.jp/xbook/](http://www.kyobunkwan.co.jp/xbook/)

やってみよう

・協力して進めよう

用意するもの：ビー玉、迷路の材料

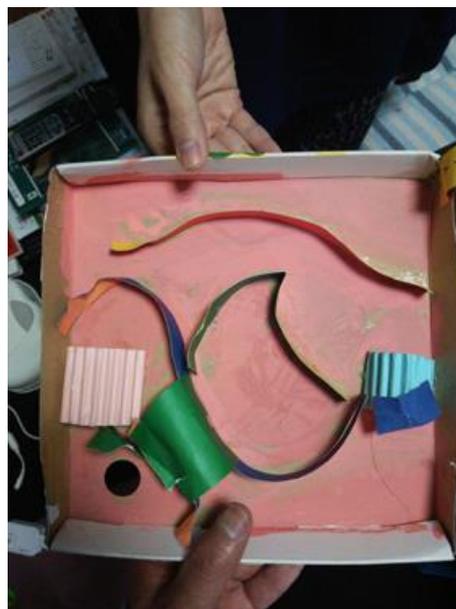
- ① お菓子の箱やフタ、段ボールなどを使って迷路を作る。
- ② 作った迷路を二人で持ち、力を合わせてビー玉を入り口から出口まで進めていく。

壁が低い（毛糸などで作ったりする）と難易度があがるよ。

話してみよう

・自分たちの「ゆるした」経験、「ゆるされた」経験を話し合ってみましょう。

- ・何でも「ゆるされる」と言ったら何をゆるしてもらいますか？
- ・「後ろめたさ」ってどんなときに感じますか？それはどうやって解消されますか？



★今週の聖句

後にいる者が先になり、先にいる者が後になる

マタイによる福音書 20章16節

★ ねらい

- ・ 天の国の報酬は、その人の働きの量や質によるものではない。
- ・ 主人が与える報酬は、自分の能力に応じたものではなく、賜物であることを伝える。

★ 説教作成のヒント

- ・ 「順番抜き」や「不公平」というキーワードをもとに、この主人（イエスキリスト）の願いをしっかりと捉える。
- ・ それぞれの労働者にわが身を置き換えて考える時間や機会をつくる。

★ 豆知識

- ・ ぶどうは短時間の間に同時にその実を収穫する必要があるため、ここで雇われた労働者は「収穫」のための日雇い労働者であろう。ブドウの収穫は畑の大きさにもよるが1週間ほど続く。
- ・ 1デナリオン=1日の日当。という考え方の根拠となった物語。

★ 説教

たっちゃんの通う保育園には、たまにおいしい手作りのお菓子を持ってきてくれる山田さんというおばさんがいます。山田さんは昔、保育園で働いたそうで、今でも子どもが大好きで、おいしいお菓子ができると、子どもたちに食べてもらいたくて、持ってきてくれるのです。山田さんのつくるお菓子はそれはそれはおいしくて、子どもたちも山田さんと、山田さんが持ってきてくれるお菓子が大好きでした。

おいしかぼちやのクッキーが焼けたということで、山田さんは今日もお菓子をもって保育園に遊びに来ました。山田さんの姿と、山田さんが抱えている袋を見ると、子どもたちは大喜びです。ソワソワしながら待っています。すると先生がやさしい声で「みなさん、山田さんが今日もお菓子をもって来てくれましたよ。おかたづけが終わった人から順番に山田さんの前にならんでください」と言いました。子どもたちは大急ぎで自分たちが使ったおもちゃや絵本をかたづけました。そしてみんな大急ぎで山田さんの前に一列に並びます。たっちゃんも大急ぎでおもちゃをかたづけて、落ちているごみも拾ってまわりをきれいにしてから列に並びました。お掃除をしていたので列の順番は後ろから3番目です。

いつもなら、前の人から順番にひとつずつお菓子を渡していくのですが、今日の山田さんはいつもと違いました。列の後ろの人からかぼちやクッキーを渡していったのです。しかもみんなひとつずつもらいました。たっちゃんは自分が一つもらったのは嬉しかったのですが、一番先に並んだお友達は、きっと2つとか3つとかもらえるんだろうなあと、うらやましく思っていました。しかし、みんなひとつずつでした。みんなにクッキーが行き渡ると、先生が「さあ、みなさん、山田さんにお礼をいしましょう」と言いました。すると列の一番先頭に並んでいた次郎くんが言いました「先生、ずるい！せっかく一番前に並んだのに、なんでみんなと一緒に数しかもらえないの？こんなことから急いで並ぶんじゃないか！」。ほかのお友達もぶつぶつ言っています。たっちゃんも同じように思いました。すると今度は山田さんが次郎くんやみんなに言いました、「そうねえ、でも、次郎くん、はじめは何個もらえると思ってた？」次郎くんは「1つ」と答えました。山田さんは続けます「でしょ、私もこのクッキーをみんなに食べてもらいたかったの。一生懸命おかたづけしたことはとっても素晴らしいことだけど、列の最初の人でも最後の人でも、私は同じようにクッキーを食べてもらいたかったの。」たっちゃんをはじめは列の最後の方なのに最初に並んだ次郎くんと同じだけクッキーもらっているのかなあってちょっと心配していましたが、山田さんの話をきいてちょっとうれしくなりました。次郎くんも山田さんの話を聞いて、自分の手にあるクッキーが最初よりもっとおいしそうに見え、みんなで山田さんのクッキーを食べることができてうれしいなあと思いました。

こうして、山田さんからもらったクッキーは、みんながおいしくいただきました。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

53番

改訂119番

やってみよう

<説明>今日の福音書のとおり、実際にロールプレイをやってみる。

<まず、役柄を決める>

・ナレーター、主人（雇う人、時間をはかる人）、監督、ぶどう園で働く労働者【明け方から（朝一番）働く人、9時、12時（昼から）、午後3時、5時（夕方から）】の人々。

<ロールプレイのすすめ方>

・ナレーター：20:1 「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。」

・主人：マタイ 20:2 「…一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送」るぞ（最初の約束をしっかりと告げる）。【一デナリオン（例）：あめ玉、お菓子、カードなど】

・主人は労働者に呼びかけ【（例）「次は〇時の人、働いて！」】（順次、5時の人まで）、順に雇い、働いてもらう【労働（例）：折り紙で、手裏剣、折り鶴を折るなどの労働】。労働時間は1分毎など、時間を計りながら雇い人を働かせる。

・ナレーター：20:8 「夕方になって、ぶどう園の主人は監督に『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。」

・監督：約束の「一デナリオン」渡す（注意：5時の人から順に配ることを忘れずに！）

・主人：労働者たちに感想を聞く（不平、不満がでないか？！もし出たら…）

・主人：20:13 「主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。』

・主人：今日のイエス様のたとえ話の最後の言葉を言う。「20:14 自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。20:15 自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。」

<参考：こどもたちと一緒に、イエス様の言葉を考えよう>

イエス様の 20:15 の言葉「自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。」の原語は、直訳すると、「私に良い（○）ことを、お前の目に悪い（×）のか」という言葉になります。

他の訳では――

・<岩波訳> 「私のものについて、私が好きなようにするのがいけないとでも言うのか。それとも、私が寛大なものだから、君の目がよこしま（嫉妬深い、貪欲な、の意）になったのか。」

・<塚本虎二訳> 「わたしがしたいようにしてはいけないのか。それとも、わたしが親切にしてやったのがうらやましいのか。」などもご参考に。

話してみよう

・兄弟がいる人はお父さんやお母さんに、いない人は教会の中で子どもが二人以上いる大人に兄弟でどっちが好きか聞いてみよう。

・順番抜きや不公平されことってある？

・明日も日雇いの仕事があります、みなさんだったら何時に広場に行きますか？

★今週の聖句

家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった

マタイによる福音書 21 章 42 節

★ねらい

- ・誰が誰にたとえられているかをしっかりと踏まえ、かつ、自分たちの物語として受け止める。
- ・イエスの死と復活という人間の思いを超えた神さまの業が人の救いとなり、新しいイスラエルの土台なる。

★説教作成のヒント

- ・このたとえ話は、当時の人々にすれば誰でもが理解できた話であった。すなわちブドウ園の主人が神であり、ブドウ園がイスラエル、農夫はイスラエルの指導者、主人が遣わした僕は預言者を指しているということである。そして自らを「神の子」というイエスが主人の息子のことを言っているのもまた明らかなことであったのであろう（この時点ではイエスは殺されていないが、殺意はすでに律法学者や祭司長たちの心の中にはあった）。
- ・だからこそ「ぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか」という問いは、祭司長や長老が自分のことを指していわれていることを理解していても、「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない。」と自らの罪を認めざるを得ないような答えを自らの口で語るのである。

★豆知識

- ・「ブドウ園の外に」:39 → マルコによる福音書では、殺してから遺体を外に放り出すが、マタイは逆。畑が地で汚れることを嫌ったマタイのユダヤ教的センスのゆえ。
- ・「民族」:43 → 神の国が「ユダヤ民族」から離れ、キリスト教徒という別の民族に移るということを行っている。

★説教

※ペープサートを用意する（ぶどう園の主人、農夫、ブドウ園、息子、僕たちの札、裏にはそれぞれ神、祭司長や長老、イスラエル、イエス様、預言者の絵をあわせておく）。

今日の聖書に出てきたイエス様のたとえ話は、イエス様の時代に生きた人たちにとっては、とっても有名なたとえ話でした。イスラエルの国はよくブドウ園にたとえられていましたし、神さまはそのブドウ園を愛され、時にはご自分で世話をしたり、時には農夫をやとって世話をさせたり、イエスらエルの人たちも自分たちを神さまのブドウ園で育つブドウの一粒一粒だと考えていました。そんな時代でしたから、このイエス様のたとえ話は、とってもわかりやすいお話でした。

それはどんなお話かという…（ペープサートを使って、時々札を裏返し、みんなで確認しながら）主人である神さまが、農夫である祭司長や長老にイスラエルというブドウ園をあずけたが、農夫はブドウ園を自分たちのもののように扱い、主人である神さまがおくった僕である預言者に乱暴をふるい、主人の最愛の子ども・イエスさままでも捕まえ、殺してしまった。というお話でした。

何ともびっくりするお話ですね、さて、これを聞いて嬉しくない人たちがいました、誰だかわかりますか？

（札をあげながら）そうですね、ブドウ園の農夫たちですね、彼らは自分たちが悪い人として登場するのが嫌でたまりませんでした。また、自分たちがイスラエルの中で一番偉いんだと思っていましたし、イエス様をご自分のことを「神の子」と言っているのを聞いて腹が立ってしかたがありません。でも、イスラエルの歴史をひもとくと、確かにイスラエルの王さまや司長たちリーダーは預言者をいじめたり、殺したりしています。「さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。」と聞いた

イエス様の問いに対して、彼らは「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない」と答えることしかできませんでした。

さて、みなさんは神さまから預かっているものはありますか？私たちが住んでいるのは日本でイスラエルではありませんが、この地球は神さまが私たち人間に預けてくれたブドウ園のようなものではないかなあと思います。地球も、そこで生きる動物も、私たち人間も、神さまの畑であり、ブドウの木であり、ブドウの一粒一粒です。自分が一番偉いとか、何でも自分たちのやりたいようにやっていたらいいんだとか思わずに、神様からあずかったブドウ畑を大切に育てていきましょう。

★分級への展開

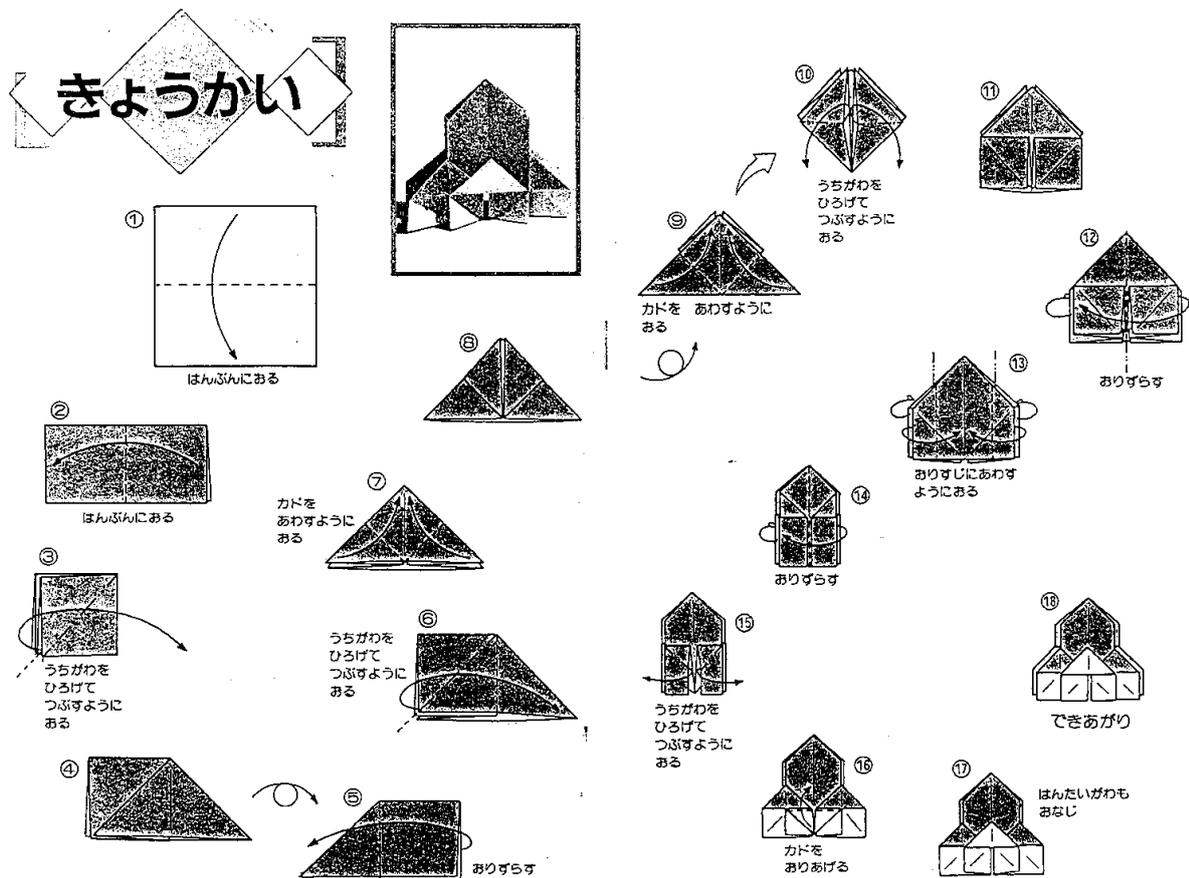
さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

- 88番
- 改訂40番

やってみよう

教会を折り紙で折ろう



話してみよう

- ・地球がブドウ園だとすると、農夫や僕、息子は誰だと思う？私たちは？
- ・私たちは地球というブドウ園で、どうやって生きていけばいい？
- ・ブドウ畑を耕すこと、ブドウの世話をすること、主人の僕や最愛の息子の声を聞くこと等々って具体的にはどんなことだろう？

★今週の聖句

わたしの父の家を商売の家としてはならない

ヨハネによる福音書 2章 16節

★ねらい

- ・自由について考える。
- ・世の中の自由と、イエス様が教えてくださる自由の違いをしっかりと理解する。

★説教作成のヒント

- ・私たちはイエス様とつながることによって、はじめて風に吹き飛ばされることなく、大空を舞うことができる。
- ・ここで言われる「真理」もまた、ヨハネ 14:6 でイエス様が語られる「真理」である。だからこそ私たちは主イエス・キリストの弟子として生きる中で自由とされるのである。

★豆知識

- ・宗教改革記念は10月31日であるが、その前の主日を宗教改革主日として覚える。2017年の宗教改革500年に向け、つながりのある学びや礼拝が守れたらうれしい。

★説教

みなさんは「自由」ですか？「自由」って何ですか？

国語辞典を見ると（何でもいいので辞典をめくって）、1 自分の意のままに振る舞うことができること。2 勝手気ままなこと。わがまま。3 他からの強制や妨害を受けないこと 4 法律の範囲内で許される行為 等々 と書いてあります。

さて、みなさんは「自由」ですか？

そうですね、自由な人もいるし、自由でない人もいますね。

さて、ここにもう一つの「辞書」があります。（聖書とりだし、めくって） 1 あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。ヨハネ 8:33 2 だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。8:36 3 主によって召された自由な身分の者は、キリストの奴隷なのです。一コリ 7:22 4 あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ガラ 5:13 5 自由な人として生活しなさい。しかし、その自由を、悪事を覆い隠す手立てとせず、神の僕として行動しなさい。 等々 と書いてあります。

さて、これは何という「辞典」でしょうか？そうですね、聖書という辞典です。聖書は私たちに様々なことを教えてくれますが、教えてくれる以上に、今読んだように、私たちに「自由」にしてくるのです。

では聖書が語る「自由」って何でしょうか？

みなさんは凧揚げをしたことがありますか？聖書が語る「自由」はこの凧揚げのようなものだと思います。もし私たちが鳥なら、それこそ自由に空を飛べますね、でも残念ながら私たちは鳥というよりは凧だと思います。いろいろな失敗をするし、どこに行ってもよいか道に迷うこともあります。だからやっぱり私たちは凧です。でも凧だって自由に大空を飛ぶことができますね、それには凧を飛ばす人がしっかりと風を読み、その人と凧の間にしっかりと糸がつながっているとき、その凧は大空高く自由に飛び回ります。凧をあげる人はもちろんイエス様です、そしてイエス様と私たちをつなぐもの、それが聖書です。聖書のことばによってしっかりとイエス様とつながるとき、私たちは大空を自由に飛び回ることができるのです。

今から 497 年前、正しく生きることができなくて悩んでいる人がいました、悪い心から解放された

いと、色々なことをためしました。しかし何をやっても悪い心から離れることができず「自分はだめなんだ」と思ってしまいます。そんなとき、聖書を通して、神さまから与えられたイエス様を信じる心によって人は正しい者とされ自由となると、自分の力ではなく、神さまの力によって人は正しい者とされ、自由になることに気づいたのです。

そう、この人がマルチン・ルターさんです。

* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

さんびしよう

□ 38番

改訂85番（1，2，4）

やってみよう

ルターの紋章の色を塗ろう

ルターの紋章について

黒い十字架についた赤いハートは死んでよみがえったキリストへの信仰、その周りの白いバラはこの世を越えた喜び、慰め、平和を、空色の地は天の始まりを表し、それらを囲む金色の輪は永遠にして高貴な救いを与えられていることを象徴しています。



話してみよう

- ・マルチン・ルターという人について調べてみよう。
どこで生まれた？何をした？
- ・宗教改革によってキリスト教の歴史はどう変わったか、牧師先生に聞いてみよう。
- ・自由について考えよう、あなたは自由？なぜ自由？自由でないとすれば、どうすれば自由になる？